

第63号
令和7年秋号

琥珀石—みどり—



医療センターからの お知らせ

内科、循環器内科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科及び眼科（火曜日のみ）の受診には、医療機関からの紹介状が必要です。腎臓内科、脳神経内科の受診には、地域医療連携室を介した紹介予約制です。

救急の場合は、この限りではありません。直接、救急外来に電話で相談してください。

—基本理念—

私たちは、すべての患者さんの安全と権利を守り、良質な医療環境のもとに、安心して適切な医療が受けられる病院をめざします。

—基本方針—

1. 患者さんと職員の安全確保
2. わかりやすい説明の工夫と守秘義務の順守
3. 医療の質の向上、チーム医療の充実、全人的医療人の育成
4. 地域医療の連携強化
5. 自治体病院としての公共性を追及

診療科紹介

耳鼻咽喉科

当院の耳鼻咽喉科は昨年度までは和歌山県立医科大学附属病院より非常勤医師派遣で診察していましたが、2025年4月より医師2名が常勤の新体制が始まりました。

当院に常勤の耳鼻科医師が派遣されるのは20年ぶりのことでもあります。新宮市立医療センターの新しい歴史に携われることを大変誇りに思います。

派遣されている医師は2名とも耳鼻咽喉科専門医であります。上気道炎や中耳炎に代表される一般的な感染症から、突発性難聴やめまい、嗅覚障害といった機能的な分野も診察治療を行っております。

他院で行った手術後などの外来フォローも行っておりますので、その場合はお手数ですが紹介状を貰って受診してください。

将来的には当院での手術治療も検討していきたいと思っております。今後とも当地域の耳鼻咽喉科領域での機能維持や診察治療に尽力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



職場ウォッチング

外来3・4ブロック

外来3・4ブロックは、2階フロアに小児科、産婦人科、泌尿器科、歯科口腔外科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、皮膚科、心臓血管外科、呼吸器外科、形成外科と多くの診療科が配置されています。スタッフは、看護師10名、助産師2名、眼科検査員3名、歯科衛生士4名、看護補助員2名で対応しています。

小児科は、医療的ケアを必要とする子どもさんに対して、看護師が臨床工学士と共に毎月1回在宅訪問をおこなっています。

産婦人科は、妊産婦さんの健診・指導や思春期から老年期まで女性のライフサイクルへのサポートを行っています。また必要に応じて保健師とも連携しながら対応しています。

泌尿器科は、膀胱内視鏡や前立腺生検などの検査が不安なく受けていただけるように対応しています。

歯科口腔外科は、患者さんが安心して受診できるよう歯科衛生士が診療や外来手術の介助を行っています。また、病棟患者の口腔ケアも行っています。

眼科は、検査員が診療の介助や白内障や緑内障、糖尿病性網膜症などに対する治療の介助や検査を行っています。

その他の診療科も処置や検査など診療をスムーズに受け頂けるよう対応しています。

今後も地域住民の皆さまが、安心して外来受診していただけるようにスタッフ一同、チーム力を発揮し、患者さんに寄り添い対応して参ります。



【看護部紹介】

新宮市立医療センターは、地域の皆さまにとって“身近で頼れる病院”として地域に寄り添った診療を日々提供しています。その中で、患者さんに最も長く寄り添う存在として日々看護を実践しているのが看護部です。

看護部は、一般外来、救急外来、高度治療室、急性期病棟、中央手術室、内視鏡室、血液浄化室など、幅広い部署で看護を提供しています。助産師・看護師をはじめ総勢約200名のスタッフが所属し、様々な職種と連携しながら24時間体制で患者さんにとって安全・安心な看護を実践できるよう取り組んでいます。

また、病院全体の看護提供体制が円滑に進むよう教育・研修の企画をし、質の高い安全・安心な看護を提供しています。“教育こそ礎”と考え、新人看護師だけでなく中堅、ベテラン、管理職向けの研修を年間計画で実施し、スキルアップをサポートしています。

新人看護師が配属された際には、新人看護師の教育を中心に担う先輩看護師（プリセプター）を配置し、プリセプターが新人看護師の精神面のサポートを行いつつ丁寧な実践面の教育を行っています。さらに新人看護師・プリセプターを職場全体でサポートする体制をとっています。看護部では、昨年度から将来の看護職の担い手確保事業も行っています。これは、地域の高等学校を対象に看護職が実際に使用する物品を持参して行う「出前講座」や小学生を対象に院内で看護職の仕事を体験してもらう「ジュニアナーシングスクール」などです。



看護部の魅力は、何よりも「チームとして支え合う看護実践」にあります。病棟では患者さんの状態を共有するカンファレンスが毎日のように行われ、看護師同士だけでなく他の医療スタッフもそれぞれの専門性を活かした意見を交わします。「困った時には必ず誰かが声を掛けてくれる」「お互いに相談しやすい雰囲気」が、地域中核病院としての質の高い看護を支えるものと考えます。

市民の皆さまに信頼される病院であり続けるためには、「地域と共にある」という視点が欠かせません。看護部では、これからも安心して医療を受けられる環境を整えながら、質の高い看護を提供し続けてまいります。



研修報告

令和7年4月～8月



令和7年4月25日(水)～5月16日(水)
オンデマンド配信
「糖尿病ケアについて～フットケアについて、
基本から学びましょう～」
講師：新宮市立医療センター
糖尿病療養指導士 城台 咲子 看護師
在宅でのケアや足の自己管理方法などわかりやすく説明され、介護関係者から好評でした。

令和7年6月11日(水) Webセミナー
「能登半島地震における珠洲市総合病院の対応
～能登半島から紀伊半島へ伝えたいこと～」
講師：珠洲市総合病院 内科医長
出島 彰宏 先生
発災直後から今日までの災害対応について詳しく教えて頂き、災害拠点病院としての役割を再認識しました。今後の半島防災に対する提言をいただきました。

令和7年5月16日(金)
ハイブリッド方式
「患者・家族と医療者のメンタルヘルスについて」
講師：紀南病院 臨床心理室主任
臨床心理士・公認心理師 原田 京子先生
患者・家族への精神的支援や私たち自身の心の持ち方を知ること、看護・介護の場面の効果的な係わり方を学びました。

令和7年7月19日(土)
新宮市立医療センター 6階講義室
「最期まで、口から安全に食べていただくためには
～わたしたちができること～」
講師：新宮市立医療センター 特定行為研修修了者
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
速水 恵 看護副師長

令和7年6月6日(金)
新宮市立医療センター 6階講義室
「2040年を見据えた病院医療と地域医療のあり方
～機能分化と連携の未来を考える～」
講師：福岡国際医療福祉大学
ヘルスサービスリサーチセンター所長
松田 晋哉 先生

令和7年8月9日(土)
新宮市立医療センター 6階講義室
第20回 紀南地区看看介連携の会
「入退院支援に係るカンファレンスについて」
というテーマでグループワークを行い、多職種と意見交換と情報共有ができました。

◆◆◆◆新任医師の紹介◆◆◆◆

内科・消化器内科 部長
つだ いくひさ
津田 郁久

産婦人科 部長
かや りゅうすけ
嘉屋 隆介

産婦人科 医長
おくむら ゆきこ
奥村 侑子

産婦人科 医員
しろた やすひろ
代田 泰大

耳鼻咽喉科 医長
ふじしろ たく
藤代 拓



消化器病を中心に内科診療を担当します。胃・大腸カメラなどお気軽にご相談ください。



新宮市の皆さまのニーズに合った産婦人科診療を行えるよう頑張ります。熱い診療を行うのがモットーです。



妊娠・出産を安心して迎えられるよう努めます。よろしくお願ひします。



世界の女性と子供を幸せにするため、新宮から頑張ります。よろしくお願ひします。



新宮地域の耳鼻科診療に貢献できるよう尽力して参ります。よろしくお願ひいたします。

◆◆◆◆退任医師の報告◆◆◆◆

氏名	診療科・役職	退任日
川路 祐輝	内科・消化器内科部長	令和7年9月30日
齋藤 良介	産婦人科部長	令和7年9月30日
松浦 美紀	産婦人科医長	令和7年9月30日
木下 哲也	耳鼻咽喉科医長	令和7年9月30日
小川 百子	産婦人科医員	令和7年8月31日

編集後記

残暑もやわらぎ、少しずつ秋らしい爽やかな風が吹くようになってきました。食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、様々な秋がありますが皆さんはどのような秋を楽しんでいますか。食欲の秋と言いたいところですが、健康診断の結果が気になる年齢になってきましたので、今年は読書や芸術の秋に挑戦しようと思います。(クロワール)